

ひまわり在宅サポートグループ

渋谷幸江 (ケアマネジャー / 中央地域包括支援センター)

- 功 績** 行政・他事業所とスピード感をもって連携しウクライナ避難民のケアマネジメントを担当、事業所のチームワークを生かし、言葉の壁を取り除くよう迅速に整備し、特異ケースをひまわり理念”その人らしく生活する事”に繋げた功績。
- 推 薦 者** 大友悠平 (在宅部長 / ひまわり在宅サポートグループ)
- 推 薦 理 由** 海外避難民のケアマネジメントと非常に稀なケースです。ウクライナ語の質問票整備・関係性構築等から早期のサービス開始に繋げた事例は、理事長賞に値するとして推薦いたします。また、今年度、渋谷は主任ケアマネを取得、今後も貢献・活躍し、理念実現の為、大いに期待いたします。

内 容

R3年4月から石巻市では、ウクライナからの避難民3名を受入、東日本大震災での被災者支援のノウハウを生かして、支援方針を固めていました。

R3年5月後半、行政の福祉課からウクライナ避難民の方の相談あり、対象者は80代後半の方とのこと。通常の介護保険等のサービス給付は対象外、言葉や環境の違い等もあり非常に特異な困難ケースであった。即座に対応する為、包括職員でインターネット等を利用し日本語のアセスメント質問票をウクライナ語に翻訳して質問票を整備した。

依頼があった翌日、ご本人、福祉課と対面、相談の結果、自治体独自の”事業対象者”という区分で対応する事となった。ウクライナ語という言葉の壁は高く、翻訳機(ポケトーク)の必要性を感じ、包括で検討し即座に手配し試行錯誤しながら介入開始となる。

介入当初は軍事侵攻からの避難という事もあり、ブルーインパルス音にも恐怖を感じ、閉じこもりがちだった利用者さんで認知機能の低下リスクが非常に強い状態の為、トイレの場所忘れ等の物忘れが多く見られていた。

渋谷は利用者さんのコミュニケーション機会創出の為、デイサービス利用につなげられるよう早期に関係性構築、付き添いで見学・契約等に繋げ、介入開始から10日程で週1回のデイサービス利用に繋げた。非常に早いサービス開始であった。通常の介護予防サービスと異なる為、利用できる介護サービスは制限される。利用可能なサービス範囲を最大限に利用し、時には福祉用具をデモという形で手配、石巻の川開き祭りを楽しまれるように協力した。

ご本人はすごく活発ではないものの、よくおしゃべりを楽しんで過ごされている。現在はブルーインパルス音も平気で、将来的には帰国し日本で知り得た事を自国で広めたい等、今後の展望を話されている。直近ではクリスマスが控えている、ウクライナではケーキもプレゼントもないが、みんなで祝い、家族の絆を深める大切な行事の一つだ。日々”輝きの日”として過ごせるように親身に寄り添った支援を継続しております。